

まだ我が家の子供たちが小さかった頃、毎晩寝る前に絵本の読み聞かせをしていました。「もういっかい、もういっかい」と何度も同じ本を読むようにねだる子供たちの様子が、今でもふと懐かしく思い出されます。

あの頃、子供たちが好きだった絵本の一つに「からすのパンやさん」(かこさとし 作、偕成社)という絵本がありました。パン屋を営むからすの夫婦が4羽の子がらすと一緒にきょうりゅうパン、ピアノパン、ひこうきパンなど様々な形のパンを作るのですが、そのパンのバリエーションの豊かなことといたら……。子供たちとどのパンが一番好きか一斉に指を指したりして、楽しい時間をもたらしてくれた絵本でした。

「きんぎょがにげた」(五味太郎 作、福音館)もぼろぼろになるくらい何度も読んだ絵本でした。五味太郎独特の温かくポップな絵の中に隠れている赤い金魚を探すという絵本です。その他にもたくさん素敵な絵本と出会いましたが、紙面の関係でご紹介できないのが残念です。

その後、子供たちが巣立ってからは、絵本とはすっかり離れてしまっていたのですが、最近、素敵な絵本に出会いました。「いのちの木」(ブリッタ・テッケントラップ 作、森山京訳、ポプラ社)という絵本です。森で仲間の動物たちと仲良く暮らしていたキツネがやがて年を取り、ある雪の日に静かに最期の時を迎えます。森の仲間たちはキツネとの思い出を語りあい、キツネの死を悼むのでした。やがてキツネの横たわっていた雪の中からキツネと同じオレンジ色の芽が出て、それが大きな木となり、動物たちを支えてくれる存在になっていくというお話です。たとえ大切な人がこの世から姿を消したとしても、私たちの心の中でずっと生き続けている……。そんなメッセージが伝わってくる絵本です。私はホスピスでの勤務の中で多くの方々を看取り、そのご家族の哀しみと過ごしてきました。大切な方を亡くしたご家族が自分の心の中で故人の新しい居場所を見つけることができればいいなあという願いを込めて、ご家族に勧めたい絵本です。

大人になったからわかる絵本の楽しみ方もあると改めて思うこの頃です。これからも素敵な絵本との出会いを楽しみにしています。

#### 【紹介された本】

『からすのパンやさん』(かこさとし おはなしのほん7) かこさとし作 偕成社 1973.9

『きんぎょがにげた』(福音館の幼児絵本) 五味太郎作 福音館書店 1982.8

『いのちの木』(ポプラせかいの絵本37) ブリッタ・テッケントラップ作

森山京訳 ポプラ社 2013.9

\*現在当館に所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用下さい。